

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102048		
法人名	都メディカル有限会社		
事業所名	グループホーム言の葉の家(1号館)		
所在地	静岡県浜松市東区貴平町571-1		
自己評価作成日	平成29年8月12日	評価結果市町村受理日	平成29年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=227102048-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは平屋の建物で、ソーラーパネルが設置されています。ホームの周囲は水田に囲まれ、四季の移り変わりを感じ取る事が出来ます。入居者様が地域の名で自分らしく過ごす事が出来、また違和感の無い居場所になるよう支援しています。平屋の建物であるため、ユニット間の行き来が活発で、交流する機会が多く、また職員同士の風通しも良好となっています。さらに当ホームは半数以上の職員が介護福祉士の資格を有しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議は地域にある同法人事業所と連携し、本事業所での話し合いが終われば次にその事業所に移動するという事で、家族・利用者以外に自治会長、民生委員、区役所職員、高齢者相談センター職員、民生委員と大勢での参加となり、隔月開催が叶っています。民生委員も区外ですが利用者の家族代わりとして、また成年後見人も毎回出席くださり、メンバーに恵まれています。「なかなか外出できていない」現状を話したところお店屋さんごっこの提案があり、利用者も大喜びで事業所の定番レクリエーションとなった例もあり、運営推進会議が実を結んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人が地域の中で自分らしく生きていけるように私たちは支援します。」という理念を掲げ、共有している。	「外が見たい」と零せば職員が車いすを押しながら外気浴にでかけることを日常とし、また公民館で行われる敬老会には毎年招待されており、今年も1名が参加する予定で、「地域の中で自分らしく生きていけるように」との想いをもって支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に参加している。 自治会より敬老会の誘いがあった。	自治会の加盟はしていますが、回覧板は廻ってきていません。中学生が福祉体験で訪れ、小・中学校の廃品回収にも協力しています。利用者の縁者がメンバーというボランティアグループの定期訪問があります。	「地域のお祭りでは向かう途中に砂利道があって出かけるのは難しい」とのことでしたが、出店のものを購入してきて中で愉しむ等、一部でも実現可能なことは実施を検討くださることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症の方の受け入れを優先している。 中学校の職場体験の受け入れを行い、入居者様が子供たちとの交流を楽しんでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。自治会長、民生委員(地区の民生委員含む)、入居者様の後見人等多い時は10人前後の参加者が集まり、質問や意見を出してくれている。	地域にある同法人事業所と連携し、本事業所での運営推進会議が終われば次にその事業所に移動するというので、家族・利用者以外に自治会長、民生委員、区役所職員、高齢者相談センター職員、民生委員と大勢での参会となり、隔月開催が叶っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新時や運営推進会議への参加のお願い、生活保護の入居者の相談手続きなどで行き来している。	生活保護を受給している利用者が7名居る為社会福祉課とのやりとりが増え、「病院受診には必ず区役所に電話連絡を入れてください」といった市の指示に従っており、窓口にも月1回以上は出向いています。	グループホーム事業所連絡会にも出席できたらヨコの連携が進み、なお良いと思います。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の定例会でAA課程を受け、話し合いをする。職員全員マニュアルで再確認する。	日中の玄関施錠はありませんが、ユニットは家族の許可を得てロックしています。「ちょっと、待って」は「今、行きますね」と置き換えたり、つい大きな声を出してしまった同僚に「もう少し落として」と相互で注意し合える関係構築が職員間にできています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の定例会でAA課程を受け、話し合いをする。職員全員マニュアルで再確認する。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人1人、保佐人2人、補助人1人利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭だけでなく、全て文書で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の案内をお知らせしている。ご家族が来設した際は、入居者様の状態を伝えている。	以前、家族から「居室の臭いが気になる」という意見があり、尿臭、便臭のことであると思われ、すぐに臭気対策に取組み、ハイターや茶殻と様々試して現在の消臭剤に辿り着いたという例からは、「要望にはなんとか応えたい」という姿勢が伝わります。	運営推進会議の出席については請求書を送る際に手紙を入れたり、電話で促してはいるものの新しく参加の家族はいないため、方向性を替え、改めて家族会が運営されたら良いかと思えます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会で意見交換をしている。月3回の朝礼文を読みあげ意見提案や決意を聞く機会を設けている。	何かあれば話し合えるようカンファレンスタイムを設け、また定例会ではユニット合同なことから普段気づかないことをお互いに投げかけることができています。車輛担当、備品調達といった係を定めて責任感も養われ、またプライベートなことでも管理者に相談が入っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望は出来る限り応えている。 パート職員も交通費が支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時にA課程、B課程の受講が義務付けられている。また初心者研修の受講を勧めている。 月に1回AA課程を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	D課程等、グループ内の交流で意見交換した行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初よりご本人及びご家族からお話を伺うようにしている。また利用者の様子を常に見守る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初よりご本人及び御家族からお話を伺うようにしている。 入居後ご家族が来設した際は、利用者の状態をお話する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状態や、ご家族からの要望を聞いた上で個別で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	カルテやご本人の話から得た情報を基にその人らしく生きていける事を大切に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護保険の申請や、定期的な受診の付き添いをして頂いている。職員はご家族に状態を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、親戚が自由に出入りし、野菜やお菓子等持ってきて下さる。	華道師範だった人の元には弟子が訪れ、珈琲が大好きな人には職員が準備して提供しています。「以前住んでいた場所がどうなっているか知りたい」との想いと一緒に出かけようとしたが、諸事情で難しくなったため後日写真を撮ってきて見てもらったということもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トランプやパズル等入居者様同志で行っている。 ユニット間の行き来を自由にして交流を増やしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談された場合、必要に応じて対応している。 退居されて7年たった今でもご家族が差し入れ等持ってきて下さることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人又はご家族から聞き取りをしアセスメントシートにまとめている。 日常生活で忘れてしまう事が多くなってきている入居者にはゆっくり話しかけ、忘れないよう毎日決まった事を実践していただく。	食への関心が高いものの腸に疾患のある人には満足感のあるメニューを検討中です。「(新しく購入する)服を選びたい」には職員が個別に買物につき添い、また1号館と2号館に住まう夫妻はユニットを行き来して互いの暮らしを尊重していて、職員もそれとなく配慮しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人又はご家族から聞き取りをし、アセスメントシートにまとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フェイスシートを使いまとめている。 経過記録の振り返りを行っている。また医師との連携を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	訴えの出来ない入居者様は、ご家族の意見や職員のアイデア等、日頃より本人の様子を把握して計画していく。また、情報共有する為、常時カンファレンスを行い、モニタリングしている。	「評価表(モニタリング実践記録表)」への記入を通して、「目標に対して達成できているか」「一部達成か」「未達成か」、誰が見ても分かるように数字で可視化できています。またサービス担当者会議は、本人も同席して行なっている点も評価されます(家族の意向は事前に聞いている)。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録やADL表、カンファレンスノート等に記録して行っている。 短期目標で個別に実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時に希望があれば出来る範囲で買物を行っている。 本人希望時に電話の利用をする事もある。 又、入居者のご兄弟のボランティアの受け入れを定期的に行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会の誘いがあり8名声掛けを受けた。正月には地域の氏子八幡神社への初詣に出かける。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科、眼科、外科、内科と必要に応じて受診出来るよう提携している。受診に行きながら入居者様は往診して下さる。	協力医院は2箇所あり、14名がどちらかに変更しています。従来のかかりつけ医の場合は基本的には家族に通院介助をお願いしていますが、「湿布が必要です」といった詳細なことまでメモにして事業所で用意しており、適正な受診が叶うよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護があり相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報用紙を作成し、病院との連絡を取るようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を大切にしながら方針を決め、都ケア等グループ全体で支えている。	看取り研修もおこない、訪問看護事業所から看護師が週2回訪れていますし、家族の要望に応えられる態勢が整っているように映りますが、事業所では態勢が満たないとしています。家族も系列の老人保健施設などでの紹介で良いとして、現状看取り実績はありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成し、周知するよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害訓練を行い、同じグループの貴葉の家まで避難訓練を行いました。年2回消防署と協力し防災訓練を行う。火災通報装置で直接消防署へ通報が行くようになっている。	防災訓練は昼・夜・風水害想定で年3回実施しており、消防署とは通報訓練を介して連携しています。近くに在る法人内の事業所までの避難を(職員のみではあるもの)おこなったことから、一層「連携を」との考えに至った、との貴重な経験も有ります。	消防署の立ち合いがこれまでないとのことですので、一度専門家の指導を仰ぐことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活が出来なくなった入居者様を他の利用者様に分からないようにサポートし、一人の人格を尊重する声掛けをするようにしている。	黒子に徹する標語を声に出して読むようになって1年が経ち、自分を抑えて利用者を優先したケアが出来ようになってきたと管理者は感じています。また最年長は70歳と、幅広い年代が利用者の生活を支え、若い職員では気づきにくいことにはベテランの補佐がみられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自己決定を尊重し、自分の希望を言い合えるよう声掛け、働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の活動を優先する介護サービスを心掛けています。やりたい事があれば希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回のビューティーヘルパーでの散髪や髭剃り等行い、常に清潔な身だしなみを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやトレイ拭き行っていたいでいる。毎食時のメニューを伝えている。口腔体操を楽しんで行っている。	常には業者搬入の食事で、ご飯とみそ汁のみ職員が手作りしています。時には具に畑で収穫したオクラや茄子も用いて話材とともに提供しています。透析の利用者も居る為、塩分を控え目にするなど配慮もおこない、「楽しみを」と考えておやつにお好み焼きやおはぎを作る日もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の少ない利用者様には健康ドリンク等で水分量が取れるようにする。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の状態に合わせ見守り声掛け、を行い必要に応じて介助している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、トイレ誘導や声掛けをして自立した排泄に向けて支援している。	入居当初は介護度3で尿失禁もあった利用者が、排泄チェック表の活用やトイレ誘導を繰り返していった結果、尿意がはっきりして失禁がなくなり、介護度1になった実例があります。ただし、自立の数名に関しては記録を取りやめていて、状態に合わせての実施となっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示に従い、水分補給や服薬による対応をしている。起床時、食事前にお茶を飲んでいただく。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はご本人の希望を優先している。また入浴の順番も考慮している。入浴拒否のある方は全身清拭も行っている。	脱衣室の出入口付近は車いすの動線が十分に確保されています。浴剤は使用せず、天然のものとして茶殻やゆずを使うことがあります。シャワー湯となってしまった人がいるものの、足し湯の1日おきで、広い浴室に仲良し2名で入ることもあり、概ねゆったり楽しめています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるようエアコンの調整、寝具の調整を行っている。またご本人の意思や今までの生活を尊重して、ご本人のペースでの生活を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を活用。処方薬の情報に目を通し、症状の変化があればADLに記録をし、必要に応じ医師の指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	草取り、農作物の収穫やパズル、外気浴で気分転換を行っている。また自主的に自室の清掃や食器拭き、洗濯たたみを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	正月の初詣や花見ドライブを行っている。	散歩では車いすを使う人と独歩の人のペアに職員が1名付くという形をつくって、夏でも曇り空など少し涼しければ出かけています。初詣には近所の神社まで午前3往復、午後3往復の少人数対応で、また花見ドライブでは車輪から降りず、車内見学でとしたりと苦心しています。	外出は家族要望にも挙がっていますが、「事業所の車輪では大勢一度に乗れない」「女性職員のみのため運転に不安がある」等の理由から苦労が絶えない状況です。本部応援(車輪、運転手)が必要では?と考えます。実現を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かっている。職員と一緒に買い物する際やキーパーソンと外出する際に渡す方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常にご本人の希望で自由にできる(事前にご家族や先方に確認)。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるよう貼り絵を飾ったりしている。温度調節を行い、ご本人が不快にならないよう気を付けている。	ユニットをつなぐ共用空間には睡蓮や牡丹、薔薇の大型クラフトフラワーが飾られ、「見事さ」に惹かれます。大相撲の番付表も貼り出され、歓喜に湧く3人掛けのソファは2つあり、ユニットで配置が異なっていたことから、そこに暮らす人のことを考えて工夫があることが覗えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファやテレビ、CD等があり、新聞を見たりゲーム、パズル、音楽鑑賞、会話を楽しむ等自由に過ごす事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテレビを配置したり、家族の写真や絵を飾っている。自分で塗った塗り絵や折り紙を飾ってある入居者様もいる。	大半はベッドですが、「転ぶといけないので」との家族の心配からマットと布団に切り替えた居室もあります。普段は筆談の利用者がはにかみながらも指で示して、「熱帯魚」「着物の女性」の写真について解説下さり、また他の人の居室にも家族や孫の写真掲示がありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の能力や安全に配慮した環境づくりを心掛けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102048		
法人名	都メディカル株式会社		
事業所名	グループホーム言の葉の家(2号館)		
所在地	静岡県浜松市東区貴平町571-1		
自己評価作成日	平成29年8月12日	評価結果市町村受理日	平成29年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2277102048-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは平屋の建物で、ソーラーパネルが設置されています。ホームの周囲は水田に囲まれ、四季の移り変わりを感じ取る事が出来ます。入居者が地域の名で自分らしく過ごす事が出来、また違和感の無い居場所になるよう支援しています。平屋の建物であるため、ユニット間の行き来が活発で、交流する機会が多く、また職員同士の風通しも良好となっています。さらに当ホームは半数以上の職員が介護福祉士の資格を有しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議は地域にある同法人事業所と連携し、本事業所での話し合いが終われば次にその事業所に移動するという事で、家族・利用者以外に自治会長、民生委員、区役所職員、高齢者相談センター職員、民生委員と大勢での参加となり、隔月開催が叶っています。民生委員も区外ですが利用者の家族代わりとして、また成年後見人も毎回出席くださり、メンバーに恵まれています。「なかなか外出できていない」現状を話したところお店屋さんごっこの提案があり、利用者も大喜びで事業所の定番レクリエーションとなった例もあり、運営推進会議が実を結んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人が地域の中で自分らしく生きていけるように私たちは支援します。」という理念を掲げ、共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に参加している。 自治会より敬老会の誘いがあった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症の方の受け入れを優先している。 中学校の職場体験の受け入れを行い、入居者様が子供たちとの交流を楽しんでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。自治会長、民生委員(地区の民生委員含む)、入居者様の後見人等多い時は10人前後の参加者が集まり、質問や意見を出してくれている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新時や運営推進会議への参加のお願い、生活保護の入居者の相談手続きなどで行き来している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の定例会でAA課程を受け、話し合いをする。職員全員マニュアルで再確認する。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の定例会でAA課程を受け、話し合いをする。職員全員マニュアルで再確認する。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人1人、保佐人2人、補助人1人利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭だけでなく、全て文書で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の案内をお知らせしている。ご家族が来設した際は、入居者様の状態を伝えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会で意見交換をしている。 月3回の朝礼文を読みあげ意見提案や決意を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望は出来る限り応えている。 パート職員も交通費が支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時にA課程、B課程の受講が義務付けられている。また初心者研修の受講を勧めている。 月に1回AA課程を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	D課程等、グループ内の交流で意見交換したっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初よりご本人及びご家族からお話を伺うようにしている。また利用者の様子を常に見守る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初よりご本人及び御家族からお話を伺うようにしている。 入居後ご家族が来設した際は、利用者の状態をお話する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状態や、ご家族からの要望を聞いた上で個別で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	カルテやご本人の話から得た情報を基にその人らしく生きていける事を大切に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護保険の申請や、定期的な受診の付き添いをして頂いている。職員はご家族に状態を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、親戚が自由に出入りし、野菜やお菓子等持ってきて下さる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トランプやパズル等入居者様同志で行っている。 ユニット間の行き来を自由にして交流を増やしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談された場合、必要に応じて対応している。 退居されて7年たった今でもご家族が差し入れ等持ってきて下さることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人又はご家族から聞き取りをしアセスメントシートにまとめている。 日常生活で忘れてしまう事が多くなってきている入居者にはゆっくり話しかけ、忘れないよう毎日決まった事を実践していただく。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人又はご家族から聞き取りをし、アセスメントシートにまとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フェイスシートを使いまとめている。 経過記録の振り返りを行っている。また医師との連携を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	訴えの出来ない入居者様は、ご家族の意見や職員のアイデア等、日頃より本人の様子を把握して計画していく。また、情報共有する為、常時カンファレンスを行い、モニタリングしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録やADL表、カンファレンスノート等に記録して行っている。 短期目標で個別に実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時に希望があれば出来る範囲で買い物を行っている。 本人希望時に電話の利用をする事もある。 又、入居者のご兄弟のボランティアの受け入れを定期的に行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会の誘いがあり8名声掛けを受けた。正月には地域の氏子八幡神社への初詣に出かける。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科、眼科、外科、内科と必要に応じて受診出来るよう提携している。受診に行きたがらない入居者様は往診して下さる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護があり相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報用紙を作成し、病院との連絡を取るようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を大切にしながら方針を決め、都ケア等グループ全体で支えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成し、周知するよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害訓練を行い、同じグループの貴葉の家まで避難訓練を行いました。年2回消防署と協力し防災訓練を行う。火災通報装置で直接消防署へ通報が行くようになっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活が出来なくなった入居者様を他の利用者様に分からないようにサポートし、一人の人格を尊重する声掛けをするようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自己決定を尊重し、自分の希望を言い合えるよう声掛け、働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の活動を優先する介護サービスを心掛けている。やりたい事があれば希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回のビューティーヘルパーでの散髪や髭剃り等行い、常に清潔な身だしなみを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやトレイ拭き行っていただいている。 毎食時のメニューを伝えている。 口腔体操を楽しんで行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の少ない利用者様には健康ドリンク等で水分量が取れるようにする。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の状態に合わせ見守り声掛け、を行い必要に応じて介助している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、トイレ誘導や声掛けをして自立した排泄に向けて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示に従い、水分補給や服薬による対応をしている。起床時、食事前にお茶を飲んでいただく。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はご本人の希望を優先している。また入浴の順番も考慮している。入浴拒否のある方は全身清拭も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるようエアコンの調整、寝具の調整を行っている。またご本人の意思や今までの生活を尊重して、ご本人のペースでの生活を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を活用。処方薬の情報に目を通し、症状の変化が有ればADLに記録をし、必要に応じ医師の指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	草取り、農作物の収穫やパズル、外気浴で気分転換を行っている。また自主的に自室の清掃や食器拭き、洗濯たたみを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	正月の初詣や花見ドライブを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かっている。職員と一緒に買い物する際やキーパーソンと外出する際に渡す方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常にご本人の希望で自由にできる(事前にご家族や先方に確認)。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるよう貼り絵を飾ったりしている。温度調節を行い、ご本人が不快にならないよう気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファやテレビ、CD等があり、新聞を見たりゲーム、パズル、音楽鑑賞、会話を楽しむ等自由に過ごす事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテレビを配置したり、家族の写真や絵を飾っている。自分で塗った塗り絵や折り紙を飾ってある入居者様もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の能力や安全に配慮した環境づくりを心掛けている。		